

平成25年度第2回公立大学法人鳥取環境大学評価委員会の概要

日時 平成25年7月22日(月) 14:00~17:00 場所 鳥取環境大学

<全体>

全体としては意欲的に取り組んでいて、よくやっている。

地域連携活動は、積極的に取り組まれており非常によいと感じる。

数値的な面での評価が先行しているような気がする。具体的に教育の中身なら中身ですね、こういうところが具体的に上がったという例を出していただけたら、内容的な意味合いも見当がつくのだが、そのあたりがちょっと分からない。

< I 大学の教育等の質の向上 1 教育 >

年度の事業計画	計画の達成状況	委員会意見
(No. 008) ○ 来年度以降開講する教職課程科目について、教育内容の検討、実験器具の整備等の準備を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・物理・化学・生物・地学について、平成25年度から開講する以下の実験科目の準備を行い、実験機器、器具等を購入しました。 前期 生物学実験・地学実験 後期 化学実験・物理学実験 ・教職のための教育相談室の準備のため、箱庭療養用具・応接セットなど必要な機器類などを購入しました。 ・さらに充実した実験環境を整えるため、実験室の増設を含めた検討を実験室構想検討委員会にて行っています。 	平成25年度の教職課程科目の開講に向け、実験機器購入等の準備を進められたことは評価するが、一方で教職や研究のための実験施設・設備がまだ十分でないという声も伺っているところである。 既に委員会を設置して実験室の増設を含めた検討を行っておられるが、実験施設・設備の充実が教職に向かっていく学生の自信や希望に繋がるものであることも踏まえながら検討を進めていただきたい。
(No. 017) ○ 社会人としての豊かな感性の醸成につながるよう図書館の図書やレファレンス機能を充	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員(司書)を1名増員し、レファレンス支援体制を強化しました。また、電子ジャーナル・電子データベースの導入を検討中です。 ・新学部用及び既設学部用、人間形成等の図書等資料を整備しました。(購入実績:計2,607冊、8,816千円)。な 	予算の範囲内で図書の充実整備は進められており、年度計画の実施状況としては、「概ね達成している」と判断できる。 ただ、伝統のある他の大学と比べ過去の蓄積が多くないこともあり、書籍がまだ充分とは言えないとい

<p>実します。</p>	<p>お、人間形成教育センターや司書が行う選書においては、社会人として豊かな感性の醸成につながる図書を留意して選書していますが、限られた予算の中で、書籍が充分とは言えない面もあります。今後さらに社会人としての感性の醸成につながるような書籍の充実を心がけます。</p>	<p>う状況であるため、更なる充実に向けた今後の検討に期待したい。</p> <p>なお、電子ジャーナル・電子データベースの導入は億単位の経費がかかり、学生のための図書という性格からは外れるものであるため、しっかりした目標を定めて検討を進めていただきたい。</p>
<p>(No. 032) ○FD（授業内容・方法を向上させるための取組）研修会の開催、外部機関が主催するFD研修会への参加等を通じて、授業内容の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度のFD推進委員会での審議は、授業評価アンケートの見直しを行いました。他大学の事例も参考に、アンケートを授業の中間と期末の2回に分け、さらにそれぞれの質問内容を見直しました。 ・中間アンケート結果の教員への通知により、後半の授業改善を目指しています。 ・また、平成24年度に実施したアンケートの内容を見直し、より具体的な授業改善に繋がることを目指しています。 ・FD研修会の開催及び外部機関が主催するFD研修会の参加については、平成25年度に検討します。 	<p>大学の教育の質を向上していくには、教員全体で授業内容・方法の改善を進めるFD（ファカルティ・ディベロップメント）に積極的に取り組むことが大事である。</p> <p>例えば、評価委員会が大学の授業を視察した際にも後ろの席で寝ている学生が見られ、改善が必要だと感じた。授業への参加意欲を高める努力は各教員が行われていると思うが、そうした工夫を教員同士が共有し、大学全体で教育の質を上げていくような組織的な取り組みが必要と考える。</p> <p>授業の工夫について意見交換をする機会が少ないという声も聞いているので、FD研修会の開催等だけではなく、教員同士の意見交換も含め、FDの全学的なシステムづくりを検討していただきたい。</p>
<p>(No. 035) ○一年次開講科目である「プロジェクト研究1、2」で、地域における具体的な課題などをテーマに、フィールドワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次開講科目である「プロジェクト研究1,2」において、地域における具体的な課題などをテーマとしたフィールドワークを前期19テーマ、後期16テーマで実施しました。 ・環境学部環境学科では、「環境学フィールド演習」において全員がフィールドワークを体験し、環境について理解 	<p>プロジェクト研究は、学生が地域に出て具体的な課題を見つけ、その解決策を考えるという特徴的な授業であり、積極的な取り組みは評価できる。</p> <p>ただ、交通手段や電話代負担等の課題があつて思うようにフィールドワークに出られないこともあるという声も聞いているので、学生の活動に対する支援</p>

<p>の要素も加え演習を行います。また、「環境学フィールド演習」を開講し環境についての幅広い専門知識の全体像を、体験を通じて理解します。</p>	<p>を深めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き地域のフィールドで体験学習できるよう、全学的に取り組みを進めます。 	<p>のあり方について改めて検討していただきたい。</p>
<p>(No. 051) ○学友会との意見交換会の実施、学生・教職員提案制度を試行するなど、学生や教職員の意見や要望・提案を聞き大学運営に活かします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 7 月 5 日に学友会を学長以下幹部との意見交換実施。学生からの意見を受け、スクールバスの台数増など改善したものや、自販機の設置など業者へ問い合わせをしたもの、また 25 年度予算に盛り込んだものなど、学生生活が充実するよう対応しました。 ・平成 25 年 1 月より「学生・職員提案制度」を導入し、学内の 3 箇所に提案箱を設置しました。その中にはスクールバスの運行時間の見直しの提案があり、事務局内で検討をしていたこともあり、平成 25 年度からの運行時間及び経路の改善に繋がりました。今後も引き続き提案制度等を活用して運営の改善に取り組みます。 	<p>学生・職員提案制度については、意見や要望が出やすいよう、引き続き提案箱の周知や意見・要望への速やかな対応に心がけていただきたい。</p>
<p>(No. 052) ○ 学生部長の下、チューター、事務局及び保護者とが連携しながら、学生フォローを行うことにより、退学率 13.0%以下を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期について、必修科目のうち 2 科目を選択し 5 回以上欠席した学生を対象に学生生活・就職委員会でフォロー面談（〔前期〕7名実施、〔後期〕8名実施）を実施しました。 ・結果として、授業に出席するようになった学生、進路を変更した学生、休学・退学を選択した学生がいました。今後も引き続き学生フォローを続けていきます。 ・平成 24 年度に卒業予定であった学生のうち、退学者の比 	<p>24 年度の退学率 9.9%で目標の 13.0%は十分に達成しているが、一方で 9.9%は決して低い率ではないと感じる。中期計画でいけば 26 年度の目標まで達成していることになるが、9.9%に甘んじることなく引き続き努力をしていただきたい。</p> <p>なお、退学の理由は学年別・学部別等で変わってくるはずなので、学年別・学部別等の分析も必要である。</p>

	率は9.9%であり、目標である13.0%をかなり下回ることができました。	
--	--------------------------------------	--

< I 大学の教育等の質の向上 3 社会貢献・地域貢献。 >

年度の事業計画	計画の達成状況	委員会意見
③ 地域連携活動の推進 (No. 074) ○ 地域連携に関する相談窓口を置き、広く地域から要望や意見を受け付けます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については、それぞれの案件に応じて、適切な部署にて対応を行ってきましたが、地域に対する相談窓口としては、十分に機能していない面もありました。 ・平成25年度から、地域イノベーション研究センターの窓口機能を充実させることで、地域からさらに多くの要望を受け入れることができるよう、準備を進めています。 	地域連携には、産学連携のように技術的な研究分野の連携と公開講座のような社会貢献的な連携なものがあり幅広い内容が含まれるため、相談窓口の一本化に当たっては、内容に応じて迅速的確に対応できるよう体制を検討してはどうか。
(No. 080) ○ 小中学校、高校への出前授業18回以上、小中学校、高校の公式行事としての利用回数21回以上を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業を42回実施しました。 ・小中学校、高校の公式行事としての大学施設の利用回数は、高校の利用（教育・学習活動：10回、スポーツ活動：22回）を中心に、年間42回となりました。特に中高校生の学内見学では本学の環境に配慮した施設設備を紹介するなど広報に努めました。 	出前授業についても、小中学校や高校の大学施設利用についても、数値目標の達成度の面では申し分ないが、回数だけではなく、内容や参加者の感想などを含め事業の「特に顕著な成果」を記載していただきたい。

< II 業務運営の改善及び効率化 1 経営体制 >

年度の事業計画	計画の達成状況	委員会意見
(No. 085) ○ 理事長（学長）の下に教職員が一丸となって大学運営に取り組む体制として、幹部会議、部局長連絡調整会議を新	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長（学長）のリーダーシップの下、迅速かつ機動的な意思決定、大学運営が可能となる体制を構築するため、法人の経営及び大学の運営に係る重要事項について必要な調整及び協議を行う組織として、理事長（学長）、副理事長、常勤の理事（事務局長）、副学長、学生部長、学部長、研究科長等で構成する「幹部会議」を設けました。 	幹部会議や部局長連絡調整会議を新設し教授会と密に連携することで、全教員が情報を共有して大学運営の諸課題に対処していく体制を構築したことは評価できる。 ただ、この項目の重要な点は「理事長（学長）の下に教職員が一丸となって大学運営に取り組む」こと

<p>設します。また、経営審議会、教育研究審議会の学外委員の意見を大学運営に反映する体制とします。</p>	<p>また、本学の部局間における連絡調整を行うための組織として、理事長（学長）、副学長、学生部長、学部長、研究科長、人間形成教育センター長、サステイナビリティ研究所長、地域イノベーション研究センター長、副学部長、学科長、副理事長、事務局長等で構成される「部局長連絡調整会議」を設置し、経営・教学両面における重要事項について、協議・調整を図ることとしました。両会議は月に1回ペースで開催し、意思疎通が図られ、迅速かつ機動的な大学運営を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、法人の経営に関する重要事項を審議する「経営審議会」は、理事長、副理事長、理事及び学外委員4名で構成され、また、大学の教育研究に関する重要事項を審議する「教育研究審議会」は学内委員9名、学外委員5名で構成され、学外委員の意見が大学運営に十分反映できる体制としています。 ・理事長がリーダーシップを発揮するため新たに企画監を配置し、企画部門を強化するとともに、理事長を支える体制の整備を行いました。 ・今後も引き続き理事長のリーダーシップが組織全体で発揮できるような運営体制について検討します。 	<p>であるから、新たな体制でどのような改善案が協議され、公立大学としてどう変革したのかといった、取り組みの具体的な成果の記載が必要である。</p> <p>なお、ヒアリングの際、大学の特性として教職員が一丸となることは無理であるとの説明があった。大学教員の独立性や専門性など特別な事情があることは確かだが、大学の中期計画でも、過去において大学運営が行き詰まった反省を踏まえて、教職員一丸となった大学経営・運営を行わなければならないとされているところであり、認識を新たにしていきたい。</p>
---	--	---

<Ⅲ 安定的な経営確保・財務内容の改善 2 志願者確保>

年度の事業計画	計画の達成状況	委員会意見
<p>(No. 110) ○ オープンキャンパス参加者数前年度以上を</p>	<p>・オープンキャンパス参加者数は942名で、前年の1406名を下回りました。昨年のような「公立化前の私立大学型入試」というトピックスがなかったことが考えられます。</p>	<p>オープンキャンパス参加者数は目標1406名に対して実績が942名であり「概ね60%以上80%未満」の達成度となるが、説明の中では参加者の質の向上が見</p>

<p>目指します。</p>	<p>今後は新聞広告等のエリアを拡大するとともに、鳥取駅の立て看板等地元への広報手段の拡大も検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度入試出願者のうち、AO入試は62.6%、推薦入試は51.5%がオープンキャンパス参加者だったことから、今後はこの割合をさらに伸ばすことを目標に、内容検討を行います。 	<p>られる（受験生の割合の上昇など）といった話もあった。適正に実績評価をするためには、単純な参加者数以外の要因も反映できるよう、計画・実績の記載に工夫が必要である。</p>
---------------	--	---

< V その他業務運営 1 コンプライアンス（法令遵守） >

<p>年度の事業計画</p>	<p>計画の達成状況</p>	<p>委員会意見</p>
<p>(No. 130) ○コンプライアンスの推進に関する基本方針を策定し、教職員、学生等にコンプライアンスに関わる啓発、研修等を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学構成員へのコンプライアンスの推進に関する基本方針については、今年度中には策定できませんでしたが、「鳥取環境大学におけるハラスメント等人権侵害の防止等に関するガイドライン」を制定し、ハラスメント等の人権侵害に起因する問題が発生した場合の対応について取り決めていきます。 ・また、学生に対しては、入学時のフレッシュャーズセミナーにおいて説明を行っているとともに、キャンパスガイドにキャンパス・ハラスメントについて掲載し、周知に努めています。 ・今後、コンプライアンスに関する研修等に関する実施計画を検討し、健全で適正な大学運営及び本学の社会的信頼の維持に努めていきます。 	<p>コンプライアンスに関わる学生への啓発を行い、コンプライアンスに反するような事例も出ていないことから評価を2としているが、基本方針の策定や教職員研修が未実施である点で評価は1に近い。基本方針の策定や研究実施計画の検討などについて、早急な対応が必要である。</p>